

# 和歌山大学クリエ映像制作プロジェクト

## 2014 年度 PJ04M03\_映画制作ミッション 報告書

ミッションリーダー 南本翔

### 1. 目標

- ・「第9回 TOHO シネマズ学生映画祭」に応募し入賞。
- ・ミッションメンバーを5つの班(プロデューサー班・監督班・録音班・照明班・撮影班)に分ける事でチーム力の向上と班リーダーの班をまとめ上げる力の向上。
- ・各班での機材練習によってクリエ映像制作プロジェクトの基礎力を向上。

### 2. 目的

第9回 TOHO シネマズ学生映画祭において入賞する事と映像制作におけるスキルを磨く事がこの映画ミッションの目的である。

### 3. 主な活動内容

クリエ映像制作プロジェクトの中で映画制作が始まったのは、2013年12月頃である。当時のプロジェクトメンバーの総意で始めました。しかし、その当時映画制作を実際に行った事があるメンバーは1人しかいませんでした。その為、実際に映画となっている古沢良太作「キサラギ」の2シーンを制作し、映画制作の基礎を学習しました。そして、2014年2月頃から映画祭に出展する為の映画を制作し始めました。この映画制作ミッションでは2本の映画を制作しました。「空き缶と公園」と「前向いて」である。

#### 「空き缶と公園」

まず、1本目は2014年の2月頃～始めました。まず、ミッションメンバーの4人が1人1本の脚本を書き、多数決でもってどの作品を映画にするのか決めました。監督は小笠原さんに決定しました。脚本の完成時期にロケハンと役者募集を行いました。役者募集ではポスターとビラを制作しました。ビラは学生会館や各学部のクリエ掲示板に貼り、ビラは昼休みにミッションメンバーで学生会館の前で配り募集を呼びかけました。呼びかけの結果、男2人・女3人の応募がありました。その中から、監督によるオーディションを行い、役者(男2人・女1人)を決定しました。ロケハンではどの場所で撮影するのが良いか、和歌山市にある公園を数か所巡りました。そして、撮影場所をロケハン時に撮影した写真と脚本のイメージを元に和歌山城近くの岡公園に決定しました。ロケハンの写真をもとに、小笠原さんが絵コンテを作成しました。絵コンテが完

成した頃から、5つの班に分けて活動を開始しました。撮影班は絵コンテに従い、クリエの裏にある駐車場を利用し、カメラの角度や高さなどを考えながら練習しました。さらにこの撮影では、人を横からカメラが同時に追う撮影があり、ドリーが必要となりました。しかし、正規品のドリーは高額な為、今年の予算では到底買えません。そこで、ネットでドリーの構造や自作でつくっている方の動画などを見、何とか自作ドリーを完成させました。この自作ドリーを用いて歩いている人を追う練習も行いました。ベニア板の上に三脚とカメラを置いているだけの為、不安定でかなり練習時から苦労しました。照明班は、まず勉強をするところから始めました。「空き缶と公園」は夜間の撮影が大半でありかなり苦労しました。映画制作の本やネットなどを見て、照明の当て方などを勉強しました。また、演劇部の照明係さんにも来て頂き、照明について教えて頂きました。練習をしてみると、元々クリエ映像がもっていた照明（ハロゲンランプ）だけでは、光量が強すぎ、さらに、オレンジ系の色だった為に、苦戦しました。白色のライトがいった為に、クリエからスタンドライトを借り、自作のライトを制作しました。音響班は機材自体そろっていたのですが、音声を撮る機会が少なかった為に、機材の使い方を勉強する所から始めました。監督班は役者とのアポイントを取り、授業の空きコマを利用して稽古を行いました。プロデューサー班は、ミッションメンバー全体でのミーティングの開催や全体スケジュールの管理、香盤表の制作を行いました。絵コンテが完成した後は上記の5つの各班での活動が主になりました。その後、撮影場所である岡公園で総合練習(2014/5/25)を行いました。一日で、すべてのカットを練習することは出来ませんでした。撮影が困難だと思われるカットを中心に行いました。この時、残念ながら朝から夕方までの実施予定だった為に、撮影場所での夜の練習が出来ませんでした。その後も各班に分かれて練習を行い、2014年6月7日～撮影を開始しました。撮影は夜間の為、毎回17時頃に和歌山大学に集合し機材を撮影場所に搬入、そして準備を行い撮影を行いました。しかし、撮影は香盤表通りには進みませんでした。予定通りに進まなかった理由としては、2つあると考えています。1つ目は1日の撮影時間が短かった事、2つ目は照明に手こずった事だと考えています。1つ目の撮影時間は時期が夏ということもあり日没が遅く、日没後も少し明るかったので予想していた時間から開始する事が出来ませんでした。事前にいつ頃から撮影できるのか、撮影場所を確認することが必要だと思いました。2つ目の照明に手こずった理由は、撮影場所での照明練習を本番までにする事が出来なかった事だと考えています。さらに、照明の当て方が難しくディスプレイで確認しながら1カットを撮影するのにかなりの時間がかかってしまいました。2つのカットを同時に2台のカメラで撮影する事もあったのですが、ディスプレイが1台しかなく肌や背景の色を合わせるのに大変時間がかかり、色を合わせるのが難しかったです。このような理由により1日に予定していたカットの半分以下しか撮影できない日々が続きました。この理由により1本目の撮影が大幅に伸びてしまいました。その後、小笠原さんが編集を行い完成させました。



### 「前向いて」

2本目は2014年7月～制作し始めました。まず、脚本を制作しました。脚本はメンバーの中の5人が一人一作品を書きました。その中で多数決をとり、得票数が高かった森田(健)さんの作品を脚本として選びました。監督は森田(健)さんに決めました。そのあと、みんなでもう一度読み直し、脚本をよりよくなる為に何度も修正を繰り返しました。そして、8月末に脚本を完成させることが出来ました。その後、メンバーの2人に絵コンテをそれぞれ書いて貰い、良いところを合わせて一つの絵コンテにしました。絵コンテも脚本と同様に、よりよくなる為に修正を繰り返し完成させました。絵コンテと同時期に役者の募集とロケハンを行いました。役者募集は1本目の映画と同じビラとポスターを用いて行いました。役者をやって頂いた1人の方は尾久土先生に紹介して頂きすぐに決まりました。しかし、のこりの2人が集まらず苦戦しました。役者をやってみたいというメールは何通か頂きましたが、詳細メールを送ったきり返事がないばかりでした。このような状態では、映画が出来ないので、立て看板を用意し、シンボルゾーンに置き募集を呼びかけました。さらに、メンバーが授業の中で役者募集を紹介させてもらい呼びかけました。そして、ようやく役者が決定しました。ここで、予定より一か月遅れてしまいました。その関係でここからの予定がかなりずれてしまいました。ロケハン是和歌山大学の学生が行っている居酒屋とその最寄り駅の近くの道、そして和歌山大学とメンバーの下宿先で行いました。ロケハン時に写真を取りそれをもとに絵コンテを修正しました。下宿先は映画の設定に合うように部屋をメンバーの家にあるものを持ちよりセッティングしました。この時期より、5つの班に分かれて活動を行いました。前回とは班のメンバーを入れ替えました。撮影班はカメラをあまり使う機会が無かった1年生もいた為、カメラの使い方をもう一度指導し、絵コンテを用いて練習し

ました。ドリーを用いた撮影の練習も行いました。照明班は予算で買うことができたレフ版と LED の照明を使い練習しました。しかし、メンバーの空コマが合わず、練習が進みませんでした。音声班は音声機材の勉強と BGM や効果音の収集を行いました。音声班も照明班と同様にメンバーの空コマが合わず練習があまり進みませんでした。監督班は役者とのアポイントを取り、稽古を行いました。前回の映画の時に役者に指導した内容を記録しておいた方が良いと感じたので、今回の映画では 1 冊のノートを作り、演技指導した内容を記録しました。これにより、指導した内容がメンバー内で共有でき良かったと感じています。プロデューサー班は香盤表づくりや週一での全体ミーティングなどを行いました。その後、撮影を行いました。下宿先での撮影では、一回全部撮り終えたのですが、後日確認すると背景に影が付きすぎていた為、すべて撮り直しとなりました。オープニングのシーンでは朝早くから集まり撮影を行いました。天候が不安定で撮影がとても困難でした。夜道の撮影では、警察署の許可とお金がかかる為、撮影場所での事前の練習が出来ませんでした。撮影を始めてみると、道が細い割りに車の交通量が多く撮影自体難しかったです。今後は、車の交通量なども事前に確認し撮影場所を決める必要があるのではないかと感じました。撮影時期も予定よりかなりずれ込みましたが何とか撮影を終わることができました。その後、編集を行い完成させました。



二つの作品は締切期間内に無事完成する事が出来、第 9 回 TOHO シネマズ学生映画祭に応募しました。

#### 4. 結果・成果

映画制作ミッションの目的の一つである「第 9 回 TOHO シネマズ学生映画祭」に応募することは出来た。結果はまだ出ていないが、受賞出来ていることを期待している。また、個人のスキルアップについてだが、レベルアップした人とそうでない人との差が

付いてしまったと感じている。5つの班に分けて活動を行ったのだが、2本目の映画時に、照明班と音声班に関しては、班のメンバーの予定が合わず、練習の回数が少なくなってしまった為にレベルアップにはなかなか繋がらなかったのではないかと考えている。さらに、照明と音声(録音)に関しては、私たち上回生も知識があまりなく勉強中の為、あまり教えることが出来なかった。本やネットを紹介して、自主学习となってしまった。このことも、レベルアップに繋がらなかった理由の一つと考えている。それに対して、撮影班は各個人かなりスキルアップしたのではないかと感じている。2本目の撮影時の後半では、1年生に任せて撮影を行ってもらった。撮影するまでの手順が、しっかりと記憶されており成長を感じることができた。監督班は、二本目の監督が森田(健)さん(1年)だったにも関わらず、アポイントや稽古などしっかりと出来ていたため、クリエ映像制作プロジェクトの1つの目標であるコミュニケーション能力の向上に繋がったのではないかと考えている。

#### 5. 今後の課題・展望

今後の課題・展望としましては、2つあると考えている。1つ目は年間のスケジュールである。今回、1年間に2本の映画を撮影したが、時間的にかなり難しかった。時間の関係で2本とも取り直したいカットなどもあったが取り直す時間がなかった。更に、2本目に関しては、生放送ミッションの時期とかぶってしまい映画だけに力を注げる状態ではなくなってしまった。このことから、映画のクオリティや他のミッションを成功させる為に、撮影や編集の期間を長く取り、他のミッションと予定が被らないようにする事が必要ではないかと考えている。2つ目は撮影時のメンバーに関してである。撮影時は極力全員参加の方針で活動を行った。1本目の映画に関しては、撮影場所まで遠く運搬などに人手がいった。夜間の撮影で撮影中も照明を3つの方向から照らし、コード裁きを行う人も必要な為人手がかなりいった。それに対し、2本目の撮影は昼の撮影がほとんどで、学校やメンバーの下宿先がほとんどだった為、撮影中に何もする事がないメンバーがいることになってしまいました。今後は、撮影のメンバーを全員ではなく日にちで撮影メンバーを分けるといった対策が必要となるのではないかと考えている。

#### 6. 感想

今回映画制作のミッションリーダーを行い、メンバーを動かすことがいかに大変か身にしみて感じました。映画制作はクリエ映像制作プロジェクトの中では初めての試みでどうすればよいか手探り状態で行って来ました。失敗してしまった事も沢山あり、メンバーにも迷惑をかけてしまいました。しかし、ここまでこれたのはメンバーのお陰であると感じています。

最後になりましたが、協働教育センターをはじめ色々な方にご協力頂き無事にミッションを終えることが出来ました。感謝いたします。ありがとうございました。